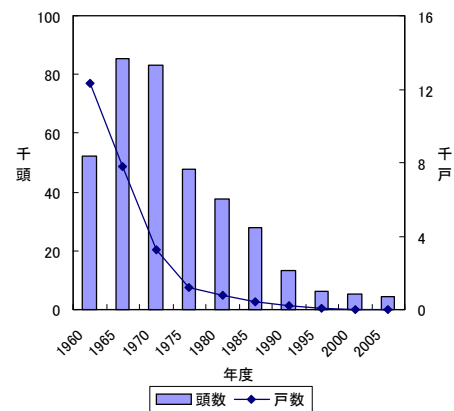


3 養豚

東京の養豚の歴史は古く、明治32年(1899)にはすでに1,400頭が飼育されており、主に区部とその周辺の市街地に接した地域から始まりました。昭和42年(1967)の94,000頭をピークに、その後、減少してきましたが、ここ数年5,000頭前後で推移しています。

【豚飼育頭数と農家戸数の推移】



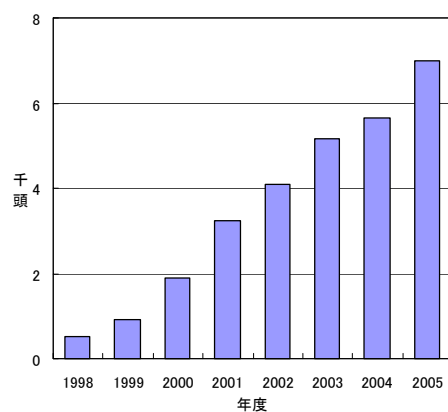
○これまでの取組と生産の特徴

昭和50年(1975)、養豚農家の要請にそった東京ならではの良い種豚を提供するために、東京都で系統造成事業を始めました。

旧畜産試験場(現農林総合研究センター)では、系統豚^{※72}の造成を行い、昭和61年(1986)に「エド^{※73}」という系統豚を生み出しました。また、平成2年(1990)からは、外国産の輸入豚肉と差別化して東京の特産豚肉を生産するために、北京黒豚等の三品種を用いて「トウキョウ X」の造成を行いました。「トウキョウ X」は日本で初めて品種間の交配で豚を改良し、平成9年(1997)に交雑種の系統豚として認定され、東京の養豚の顔となっています。

一方、TOKYO X 以外の従来の豚も飼われています。東京養豚の特徴として、残飯等の活用がありました。現在もその流れを引き継ぎ、未利用資源を活用した経営が行われています。

【TOKYO X生産頭数の推移】



○課題

- 消費者の需要に応えるため、TOKYO X の増産が必要です。
- TOKYO X 生産組合の組織力向上と、畜産物生産に対する消費者の理解を促進し、安心して購入できるトレーサビリティ等のシステムが必要です。
- 未利用資源の活用や環境に配慮した、都市型養豚の実現が求められています。

○取り組むべき具体内容

- TOKYO X の生産量を増やすため、他県を含めた新規生産農家を増やし、繁殖・育成技術向上のための研究・指導を強化します。また、安全で、環境保全にも貢献する飼料研究を実施します。さらに、TOKYO X 生産者組織の自立・強化に向けた、助言指導も行っていきます。
- 生産者と消費者の交流の機会を増やすとともに、消費者が安心できる生産情報管理システムの充実を図ります。
- 食品産業とともに、未利用資源の活用や環境に配慮した飼養方法について検討・研究を実施します。

○今後の計画

- ◇生産量の拡大 ... 平成 19 年度に 1 万頭、
平成 22 年度には 2 万頭生産体制を実現
- ◇安全性の追求 ... 子豚の飼料研究を開始